

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和6年1月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500052		
法人名	株式会社グレイトホーム		
事業所名	グループホームいとが 1階ユニット		
サービス種類	認知症対応型生活介護		
所在地	和歌山県有田市糸我町西43-3		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和5年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は気象状況やコロナ感染状況など、いろいろな試練があり、大変な年でした。そのような状況下で、職員たちの協力や支援体制などが強化された年でもあり、日頃のご利用者様達の状態を把握できているがゆえ、大変な状況下でも適切に支援できたと思います。具体的には6月の豪雨での浸水被害。1階の床上浸水の恐れがあり、停電でエレベーターが動かなくなり、職員が利用者様を背負って2階に避難させ、不安がる利用者様に寄り添い、支援しました。又、8月にはコロナウイルスの感染者が利用者様の中から出て、2階のユニットのクラスターとなってしまいました。しかしながら、1階とは完全に分離し、それ以上広げることなく収束しました。そのような経験から、災害時の避難誘導や、感染症の拡大を防ぐ術を実際に体験できたことは貴重な経験となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームいとがは、地域との触れ合いを大切にしており、利用者と一緒に製作したアクリルたわしを糸我公民館へ寄付したり、毎週水曜日に、敷地内の駐車場にやって来る「移動スーパー」で、利用者と近隣住民が買い物を通じて、交流が図れるよう取り組んでいる。食事は、ユニットごとに職員が利用者の好みなどを考慮して作成した献立に基づいて、スーパーマーケット等で購入した食材を調理し、提供している。節分やひな祭りなどの行事に合わせて行事食を楽しんだり、月に1回はお好み焼きやたこ焼きなどをみんなで作る食レクを実施するなど、食事に変化をもたせ、食事が楽しいものになるよう配慮している。入浴は、週2回を基本にしているものの、回数や曜日、時間帯(午後7時まで)は、できる限り利用者の希望に沿った対応を行っており、入浴希望が毎日であっても対応するとしている。浴槽に入ることを嫌がる利用者には、足浴とシャワー浴を組み合わせるなど、利用者の心身の状態に合わせた入浴の支援を行っている。

自己評価	項目	自己評価	外部評価
		実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「グループでつくるあったかホーム。いつも隣に友がいる。がんばる私とあなたの心。」職員から募集した理念を常に心がけ、日々の業務に取り組んでいます。標語は玄関ホールに掲げてあります。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の思いを詠った「介護理念」と法人創業者の思いの「法人理念」がある。これらは、事業所玄関に掲げている他、パンフレットにも掲載している。管理者は特に「いつも隣に友」がいるような支援を重視し、そのための傾聴や見守りを大切にしており、職員とともに理念の実践に心がけている。
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入しており、糸我公民館に事業所で利用者と一緒で作成したアクリルたわしの寄付を継続している。また毎水曜日の移動スーパーの来所は、利用者と近隣住民とが顔見知りになれる機会となっている。以前交流のあった保育園は閉鎖したため、今後地元小学校との交流の再開を予定している。
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	田園地帯ですので、日頃から散歩をしている時にはお声をかけて下さる方もおられ、週に1度は移動スーパーがホームの駐車場に来るので近所の方達と一緒に買い物をしています。又、秋祭りには子供、大人獅子舞や太鼓の演奏をしにきてくれますので、ホームからもご祝儀などをお渡ししています。
			利用者様と職員で作る「アクリルたわし」が結構好評で、編みためております。地域の公民館活動への参加として提供したいと思います。又、以前のように小学校の生徒さん達との交流も再開できたらと望んでいます。
			今年の3月以降、運営推進会議を再開し、年6回のペースを崩さずに開催している。事業所の代表者、管理者、地域の民生委員や自治会長、介護保険課の職員等が出席している。11月には、出席者と利用者が一緒に「たこ焼き」作りを楽しんだ。作成した議事録を閲覧することで職員間で議事内容を周知している。意見等があれば申し送りノートに記入し、サービスの向上に活かせるように取り組んでいる。

5	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>入居者様の中には生活保護の方も数人おられ、常に市町村や振興局の各担当者とは連絡は取っています。又、地域包括からの空室の問い合わせや入居者の実情報告や相談なども事業所から行っています。今後の課題としてはご利用者の家族の高齢化や身寄りのない方の後見人など、市町村と協力体制を取って進めて行かなければならないと思っています。</p>	<p>市の担当課（介護保険課）には、運営推進会議の次回開催の案内を持参することにしていて、その際に日頃の活動状況等を相談することもある。また運営推進会議への出席の中で、様々な意見交換を行い、協力関係の構築を行っている。地域包括センターとは空き状況の問い合わせ等でコミュニケーションを図っている。</p>	
6	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者を筆頭に全職員が研修や勉強会を通じて身体的拘束をしないケアの実践に努めています。玄関の施錠も全くせずにはいきましたが、今年7月に入居された方のケアをするために必要となり、以後、玄関は施錠させて頂いています。他の入居様やご家族様にも理由を説明し、了解を頂いています。</p>	<p>身体拘束防止の資料を閲覧するにとどまり、研修や勉強会は現在実施していない。身体的拘束が必要な利用者もいるが、家族の同意も口頭による。玄関ドアの施錠は終日行っており、外出願望のある利用者には気候が良い時は職員と一緒に外に出ることもある。</p>	<p>身体拘束の研修や勉強会は年間の研修計画に位置付け、実施することが望まれる。身体拘束が必要になった利用者の家族への対応方法や、日頃の職員間での身体拘束のないケアを徹底するための研修の実施などの取り組みに期待したい。</p>
7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>コロナ下では外部の研修の参加にいろいろと制約があり、できていませんでしたが、事業所内で資料を作成し、内部での研修は随時、行っています。又、ここに来て、公的機関からの研修の案内も来るようになり、参加させて頂いています。</p>	/	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際にご利用者の方で成年後見を利用される方がおられ、実状況を学ぶ機会が持てました。今後はご家族の高齢化や、身寄りのない方も増加すると思われ、必要な手続き等、学ぶ機会を常に持ち、又、公的機関との連携も不可欠となると思われます。</p>	/	
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には重要事項説明書・契約書に基づいて十分な説明を行い、理解していただき、納得のうえ、入居して頂いています。その他、個々の状況に応じて詳しく説明させて頂いています。</p>	/	

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱も設置しておりますが、ご家族様と直接お会いした時に要望やご意見を頂戴しています。又、来所できない方にはお電話などでも承っております。それらを現場職員に周知できるよう、直接口頭で、又は申し送りノートにて伝達しています。	利用料の支払いで来所の際に意見を聴いている。意見等は申し送りノートに記入し、職員間で情報共有を行う他、個人的なものは経過記録に記録している。ただ、現在は運営に関するような要望等はない。	利用者やその家族が運営面の要望や意見が表出できる機会を増やすなど、事業所としてのより一層の工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員からの意見・要望は代表者・管理者が直接聞いており、又、各フロアに申し送りノートを設置して情報の共有を行っています。	日頃の勤務の中で各職員が管理者に直接伝えている。職員間で周知が必要なものは申し送りノートに記入して職員が閲覧している。過去には、職員専用トイレの設置、食材の購入方法の改善、喫煙場所の変更、食事での利用者が使用するエプロンを使い捨てに変更するなど、職員の意見を運営面に反映してきた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を昇給や賞与で繁栄させたり、職員の希望休暇や休憩場所の環境整備を行っています。又、本年度より1週間程度のリフレッシュ休暇を認め、仕事でのストレス緩和を図っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での業務研修はもとより、外部研修にも参加してもらっています。本年は認知症実践者研修に1名参加しました。職員一人一人のケアのスキルアップを図る為、内部での基本的なケア技術を互いに見直しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加盟し、交流の機会を設けています。又、同地区内の他のサービス事業者から職員の業務での提携を提案されており、検討中です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設に入居される方は、ほとんどがご家族の希望であることが多く、ご本人自ら希望されることは少ないため、入居の申し込みがあった時点で必ずご本人と面談させて頂き、要望や思いを聞きとり、不安なく入居されるように努めています。		

16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当のケアマネさんが居られる場合は、ご家族と共に施設を見学していただき、その際にお困りごとや要望を十分に聞き取り、当施設で対応できるかどうかなど、ご相談させて頂き不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	充分にお話を伺い、その時点でご本人やご家族が必要とされているサービスを判断します。当施設への入居が必要でない場合は他のサービスや相談機関を提案させて頂きます。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を把握し、できることはして頂き、できないことをさりげなく支援させて頂く。いつもそのスタンスで職員はケアをさせて頂いています。「お互い様」の精神を心がけています。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは、ご本人の為にを考えて、ご家族にも協力を依頼しながら、共に支えて行けるような関係性を目指しています。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の了解を得たうえで、友人や知人との面会もして頂いています。ご家族との面会などは世情を考慮して、関係機関の指導を受けながらして頂くようにしています。個人への食べ物などの差し入れも量を考慮して頂き、職員の管理のもと召し上がって頂いています。	友人や知人の面会ができるように支援している。かつての釣り仲間が釣った魚を事業所にもって来てくれたこともある。馴染みの場所には、家族が連れて行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、居間での会話やレクリエーションでかわりを持って頂いています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療での治療が必要になり、退去された方の支援を退去後もさせて頂いています。（ご家族がご病気や高齢で支援困難な為）		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初のアセスメントに反映されていることを元に、ご本人の思いや暮らし方を実現できるように努めていますが、年数を経るにつれ、ご本人の思いにも変化が現れます。職員たちとのコミュニケーションの中からご本人の思いを把握して共有しています。	利用者とは相性のいい職員が主になって暮らし方の希望等を聴き取っている。意思疎通が困難な利用者には、反応や仕草などから概ね判断している。聴き取った情報は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際の聞き取りの中からご本人の生い立ちから生活歴までご家族から聞き取り、介護サービスの利用状況や入院歴などは担当者(ケアマネ・病院等)から情報を得て、職員一同共有しています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の経過報告・身体状況などはアイパットに記入し、職員間の申し送りノートに記入したりして情報を共有し、現状の把握に努めています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が望む暮らし、ご家族の意向を確認し、医療面では健康面、精神面でもかかりつけ医に報告、相談をして職員間でカンファレンスを持ち介護計画書に繁榮させています。又、長く入居されている方は、病状の変化や生活状況が変化してきた場合はモニタリングを経て、柔軟にその時に添った計画の見直しをしています。	心身の状況等に変化が無ければ、介護計画及びモニタリングは1年ごとに見直している。見直しに際しては、カンファレンスを行い、利用者本人や家族の意向とともに職員や主治医の意見も加味している。	当方で確認した個人ファイルには、ここ近年の介護計画の見直しの記録等が確認できなかったため、介護計画やモニタリングの記録を整備することが望ましい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	手書きの個別記録用紙への記入とアイパットへの記入を行い、職員が速やかに情報の共有ができるようにしています。それを基に、ケアの実践や計画の見直しをしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはできるだけ応えるようには、していますが、その時の世情により、柔軟な対応は心がけていますが、対応困難なケースでは地域包括や福祉の担当者に相談しています。		

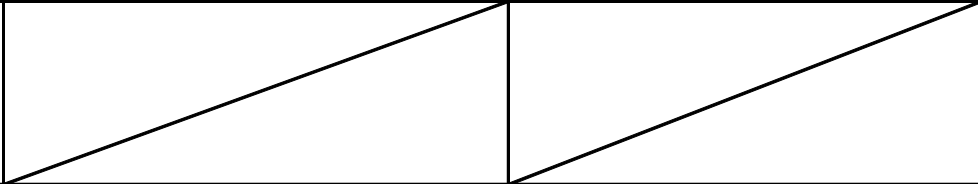
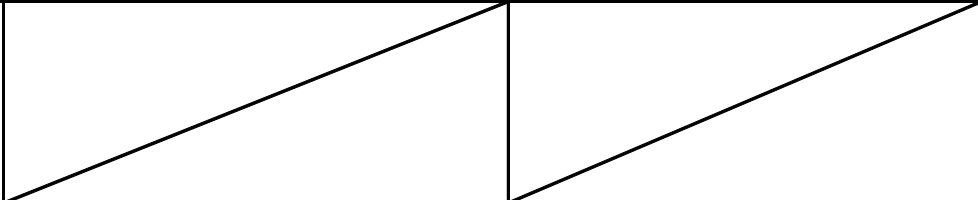
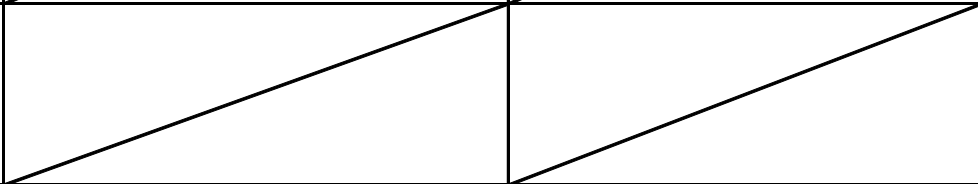
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員、自治会、老人会、公民館活動、派出所、消防団など、地域にある資源との協力体制は取っています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当事業所の協力医は各診療科とも指定されていますが、入居前からのかかりつけ医がいる場合には入居後も引き続き受診しています。</p>	<p>事業所の協力医だけでなく従来からのかかりつけ医の訪問診療も受け入れているため、ほとんどの利用者が以前からのかかりつけ医を継続している。医療機関への受診には主に家族が同伴しているが、家族の対応が困難な時は事業所の職員が連れていくこともある。受診結果に特に変化がなければ、月次報告書に記録して、家族に報告している。家族からは受診結果を電話等で報告を受け、経過記録に記入している。職員は経過記録を閲覧し、情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>受診の都度、かかりつけ医には1カ月の記録の持参をし、状況の報告を行っています。又、当施設と契約の訪問看護ステーションでは月に2回の定期的訪問を行ってもらい、その都度、個々の状況については報告しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関、近隣の病院とは連携を図っており、情報交換・相談などは行っています。入院の際には、直近1カ月の情報と必要であれば、ケアマネのアセスメントシートの提出も行っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時の契約書を交わす時点で、重度化による医療の必要性(当施設ではケアが困難になった場合)や終末期における可能なケアについては、説明して同意を頂いています。又、入居中に身体状況の悪化や急変があった場合、主治医のみならず、他病院への紹介もして頂き、家族と共に本人への支援に取り組んでいます。</p>	<p>利用契約時に重度化や終末期に向けた事業所としての方針を口頭で説明している。4年前に事業所内で利用者を看取った実績があるものの、現在は看取り介護についてのマニュアルや職員への研修もなく、看取りへの支援は積極的ではない。</p>	<p>重度化や終末期に向けた事業所の方針等は文書により説明し、同意を得ることが望ましい。</p>

34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応・連絡体制は常に職員一同、把握できています。訪看ステーションへの連絡、夜間の連絡体制も取れており、AEDの使用もいつでも実施できるように努めています。		
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル整備に加え、地域で行われる避難訓練にも参加しています。実際に避難道を歩き、問題点や当施設に応じた避難の仕方を話し合っています。民生委員さんから、地域の消防団の助けを借りようとの助言も頂き、応援をお願いします。	防災マニュアルはない。また消防訓練や避難訓練等を利用者を交えて開催していない。今年6月に大雨による水害を体験したことで防災意識が高まっている。なお、事業所の内外において食料や水、乾物、コンロなど3～4日分は備蓄している。	マニュアルの整備とともに消防（避難）訓練を実施することが必要である。また、運営推進会議の機会を利用して地域に対して協力体制を呼びかけるなどの積極的な取り組みを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員には人格尊重とプライバシーの重要性については常に意識づけを図り、守秘義務については誓約書を提出してもらっています。ご利用者への言葉使い、言葉かけにおいては互いに気が付いた時に、その都度注意をしています。	人権やプライバシー保護に関する研修は実施していない。日頃の支援の中で管理者が、職員による不適切な対応を見かけたときに個別に指導している。利用者と呼ぶ際に大きな声を出さないようにしたり、利用者の姓を「さん」付けにするなど、利用者への声掛けには特に注意を払っている。個人記録等は1階事務所内の鍵付書庫に保管している。	職員の人権意識の喚起を図るためにも、人権やプライバシー保護の研修を年間研修計画に位置付け、実施することを期待する。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で必要な物が出来てきた場合、職員が直ぐに要望を聞き取り、ご不自由が内容に努めています。個人的な買い物にも対応しています。その方の能力に応じて、自己決定しやすいような声掛けを心がけています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに合わせて過ごして頂いています。基本的に食事の時間は決まっていますが、起床の遅い方もあり、自由にして頂いています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気温にあった衣類の選択は助言させて頂きますが、それ以外はお本人の思い通りにして頂いています。要望により、買い物に同行やご家族への連絡もしています。		

40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内でご利用と共に作るのを基本としています。2ユニットありますが、献立は各々違ってきます。折には希望により、ハンバーガーやカップラーメンなども取り入れることもあります。その方の能力に応じてテーブル拭きや、食器洗いをして頂きます。	献立はユニットごとに別々に作成し、各ユニットの担当者が食材の購入を行っている。利用者の希望を取り入れながら、食材から調理している。利用者も配膳等、能力に応じて職員と一緒にやっている。節分やひな祭りなどの行事食を提供したり、月に1回はお好み焼きやたこ焼きをみんなで作って楽しめる機会を取り入れている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はすべて記録しており、量がかりやすいように、大きさの同じコップを使用しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、必ず洗面台にて、歯磨きやうがいを促し、一人ではできない方には職員が介助しています。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間、オムツの使用の方でも、日中はリハビリパンツを使用していただき、トイレに誘導して排泄を促しています。	利用者の排泄パターンを排泄表により把握している。日中はタイミングを見て声をかけトイレに誘導している。夜間は自分でトイレに行ける利用者以外は、声をかけてトイレに誘導している。日中はリハビリパンツでも夜間は紙オムツにして就寝する利用者もいる。日中は紙おむつからリハビリパンツに変更できるように取り組み、2～3人の利用者が改善することができた。失禁した際は、小声で声かけし、浴室に誘導し洗浄を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入し、排便が3日ない日が続きますと医師からの処方薬の緩下薬を使用しますが、できるだけお薬に頼らない排便を促したいので、食事にも気を配り、水溶性・不溶性食物繊維が含まれる食べ物を意識して調理しています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本入浴日は週に2回ですが、体調や本人の希望により、決まっています。2回以上、入る方がほとんどです。</p>	<p>入浴は週に2回を基本としている。曜日は固定しておらず、時間帯も午前中が中心だが、職員の配置により午後も可能である（最終午後7時）。毎日希望する利用者がいても対応は可能である。入浴を拒否する利用者には、職員を代えて声かけしたり、曜日を変えたり工夫している。浴槽の湯は利用者ごとに入れ替えず、絶えずかけ流しである。同性介助は困難である。ゆず湯や足浴など季節や利用者に応じた対応を行っている。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床・就寝時間は利用者の希望に沿っています。昼夜逆転で日中、ほとんど寝て、夜間、起きている方もいます。自室ではテレビを見たりして過ごす方もおられます。</p>	
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>受診の後には必ず、受診報告書を作成して、職員が全員状況を把握できるようにしています。配薬する職員は決まっています。</p>	
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>趣味やゲームで楽しめる方。食べ物の嗜好品で楽しめる方など、様々ですが、希望通りの支援をできるだけさせて頂いています。</p>	
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ご家族に依頼して外出ができる方は少数で、ほとんどが施設職員との外出になってしまいます。認知症の重度の方は、地域の方との外出には、困難です。</p>	<p>気候に応じて、週に3回程度、近所の散歩を行っている。年に数回は近くのスーパーマーケットに職員と一緒に買い物に出かけている。また、季節により鉄道公園での花見や、アイガモ農法に取り組んでいる田んぼにカモを見に行ったり、鯉のぼりや花火の見物に出かけている。歩行が困難な利用者には、車いすや福祉車両を活用するなど、外出やドライブが楽しめるように取り組んでいる。</p>

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時にはご家族様の了解のもと、個人的な小遣いをお預かりする場合があります。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話をお持ちの方、施設にかかってくる電話をお取次ぎする方、毎回、手紙を書いて出される方など、様々です。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明るく、日差しが感じられる共用空間を作っています。観葉植物や季節の花を飾り、季節感を感じて頂きます。</p>	<p>共用スペースには花や観葉植物の他、利用者の暮らしぶりのわかる写真や利用者が作成した作品等を掲示している。職員が毎日掃除を行っている。居間兼食堂での利用者の座席は車いす使用やトイレへの誘導を勘案して職員が決めている。また、こだわりがある利用者には、その利用者専用のテレビや座席を設置するスペースを設けるなど工夫している。室温調整は職員が行っている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各フロアにおいて、一人一人が心地よく過ごせるような空間と、良い関係性が保たれるように座る場所なども考えて配置しています。歌謡曲が好きでカラオケで歌う方には居間に設置して楽しんで頂いています。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各個室のお部屋にはご家族の写真や、馴染みの物を設置させて頂いています。お誕生日には職員からの手作りのお祝いメッセージが贈られます。</p>	<p>居室の扉には利用者の氏名を明示し、利用者が作成したクリスマスリースなどの作品を飾っている。居室内のベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、それ以外は利用者が持ち込んでいる。布団などの寝具、タンスやテレビの持ち込みが多く、特に持ち込むものに制限はない。清掃は職員と利用者が一緒に行っている。室温の管理は職員が行っている。</p>	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や使用しやすいトイレ空間、行き来のできる広いローカなど、ご利用者の身体状況に合わせた設備となっています。又、フロア全体が見えるカメラも設置しました。</p>		
----	--	---	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和6年1月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500052		
法人名	株式会社グレイトホーム		
事業所名	グループホームいとが 2階ユニット		
サービス種類	認知症対応型生活介護		
所在地	和歌山県有田市糸我町西43-3		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和5年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は気象状況やコロナ感染状況など、いろいろな試練があり、大変な年でした。そのような状況下で、職員たちの協力や支援体制などが強化された年でもあり、日頃のご利用者様達の状態を把握できているがゆえ、大変な状況下でも適切に支援できたと思います。具体的には6月の豪雨での浸水被害。1階の床上浸水の恐れがあり、停電でエレベーターが動かなくなり、職員が利用者様を背負って2階に避難させ、不安がる利用者様に寄り添い、支援しました。又、8月にはコロナウイルスの感染者が利用者様の中から出て、2階のユニットのクラスターとなってしまいました。しかしながら、1階とは完全に分離し、それ以上広げることなく収束しました。そのような経験から、災害時の避難誘導や、感染症の拡大を防ぐ術を実際に体験できたことは貴重な経験となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「グループでつくるあったかホーム。いつも隣に友がいる。がんばる私とあなたの心。」職員から募集した理念を常に心がけ、日々の業務に取り組んでいます。標語は玄関ホールに掲げてあります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田園地帯ですので、日頃から散歩をしている時にはお声をかけて下さる方もおられ、週に1度は移動スーパーがホームの駐車場に来るのでご近所の方達と一緒に買い物をしています。又、秋祭りには子供、大人獅子舞や太鼓の演奏をしにきてくれますので、ホームからもご祝儀などをお渡ししています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と職員で作る「アクリルたわし」が結構好評で、編みためております。地域の公民館活動への参加として提供したいと思います。又、以前のように小学校の生徒さん達との交流も再開できたらと望んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地元担当の民生委員さんたちも出席してください。中には利用者様の元、担当の方もおられ、会議の当日にはいつもお声をかけて下さり、又、たこ焼きなどを一緒に作り、交流を深めています。毎回貴重なご意見を頂き、課題とさせて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	入居者様の中には生活保護の方も数人おられ、常に市町村や振興局の各担当者と連絡は取っています。又、地域包括からの空室の問い合わせや入居者の実情報告や相談なども事業所から行っています。今後の課題としてはご利用者の家族の高齢化や身寄りのない方の後見人など、市町村と協力体制を取って進めて行かなければならないと思っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	代表者を筆頭に全職員が研修や勉強会を通じて身体的拘束をしないケアの実践に努めています。玄関の施錠も全くせずにはいましたが、今年7月に入居された方のケアをするために必要となり、以後、玄関は施錠させて頂いています。他の入居様やご家族様にも理由を説明し、了解を頂いています。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>コロナ下では外部の研修の参加にいろいろと制約があり、できていませんでしたが、事業所内で資料を作成し、内部での研修は随時、行っています。又、ここに来て、公的機関からの研修の案内も来るようになり、参加させて頂いています。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際にご利用者の方で成年後見を利用される方がおられ、実状況を学ぶ機会が持てました。今後はご家族の高齢化や、身寄りのない方も増加すると思われ、必要な手続き等、学ぶ機会を常に持ち、又、公的機関との連携も不可欠となってくると思われます。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には重要事項説明書・契約書に基づいて十分な説明を行い、理解していただき、納得のうえ、入居して頂いています。その他、個々の状況に応じて詳しく説明させて頂いています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先にご意見箱も設置しておりますが、ご顧客様と直接お会いした時に要望やご意見を頂戴しています。又、来所できない方にはお電話などでも承っております。それらを現場職員に周知できるよう、直接口頭で、又は申し送りノートにて伝達しています。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員からの意見・要望は代表者・管理者が直接聞いており、又、各フロアに申し送りノートを設置して情報の共有を行っています。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績等を昇給や賞与で繁栄させたり、職員の希望休暇や休憩場所の環境整備を行っています。又、本年度より1週間程度のリフレッシュ休暇を認め、仕事でのストレス緩和を図っています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部での業務研修はもとより、外部研修にも参加してもらっています。本年は認知症実践者研修に1名参加しました。職員一人一人のケアのスキルアップを図る為、内部での基本的なケア技術を互いに見直しています。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域密着型サービスケアネット和歌山に加盟し、交流の機会を設けています。又、同地区内の他のサービス事業者から職員の業務での提携を提案されており、検討中です。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>当施設に入居される方は、ほとんどがご家族の希望であることが多く、ご本人自ら希望されることは少ないため、入居の申し込みがあった時点で必ずご本人と面談させて頂き、要望や思いを聞きとり、不安なく入居されるように努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>担当のケアマネさんが居られる場合は、ご家族と共に施設を見学していただき、その際にお困りごとや要望を十分に聞き取り、当施設で対応できるかどうかなど、ご相談させて頂き不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>充分にお話を伺い、その時点でご本人やご家族が必要とされているサービスを判断します。当施設への入居が必要でない場合は他のサービスや相談機関を提案させて頂きます。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の能力を把握し、できることはして頂き、できないことをさりげなく支援させて頂く。いつもそのスタンスで職員はケアをさせて頂いています。「お互い様」の精神を心がけています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>まづは、ご本人の為にを考えて、ご家族にも協力を依頼しながら、共に支えて行けるような関係性を目指しています。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の了解を得たうえで、友人や知人との面会もして頂いています。ご家族との面会などは世情を考慮して、関係機関の指導を受けながら頂くようにしています。個人への食べ物などの差し入れも量を考慮して頂き、職員の管理のもと召し上がって頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、居間での会話やレクリエーションでかわりを持って頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療での治療が必要になり、退去された方の支援を退去後もさせて頂いています。（ご家族がご病気や高齢で支援困難な為）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初のアセスメントに反映されていることを元に、ご本人の思いや暮らし方を実現できるように努めていますが、年数を経るにつれ、ご本人の思いにも変化が現れます。職員たちとのコミュニケーションの中からご本人の思いを把握して共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際の聞き取りの中からご本人の生い立ちから生活歴までご家族から聞き取り、介護サービスの利用状況や入院歴などは担当者（ケアマネ・病院等）から情報を得て、職員一同共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の経過報告・身体状況などはアイパットに記入し、職員間の申し送りノートに記入したりして情報を共有し、現状の把握に努めています。		
26	#	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が望む暮らし、ご家族の意向を確認し、医療面では健康面、精神面でかかりつけ医に報告、相談をして職員間でカンファレンスを持ち介護計画書に繁栄させています。又、長く入居されている方は、病状の変化や生活状況が変化してきた場合はモニタリングを経て、柔軟にその時に添った計画の見直しをしています。		

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	手書きの個別記録用紙への記入とアイパットへの記入を行い、職員が速やかに情報の共有ができるようにしています。それを基に、ケアの実践や計画の見直しをしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはできるだけ応えるようには、しています。その時の世情により、柔軟な対応は心がけていますが、対応困難なケースでは地域包括や福祉の担当者に相談しています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会、老人会、公民館活動、派出所、消防団など、地域にある資源との協力体制は取っています。		
30	# ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医は各診療科とも指定されていますが、入居前からのかかりつけ医がいる場合には入居後も引き続き受診しています。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	受診の都度、かかりつけ医には1カ月の記録の持参をし、状況の報告を行っています。又、当施設と契約の訪問看護ステーションでは月に2回の定期的訪問を行ってもらい、その都度、個々の状況については報告しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関、近隣の病院とは連携を図れており、情報交換・相談などは行えています。入院の際には、直近1カ月の情報と必要であれば、ケアマネのアセスメントシートの提出も行っています。		

33	#	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書を交わす時点で、重度化による医療の必要性(当施設ではケアが困難になった場合)や終末期における可能なケアについては、説明して同意を頂いています。又、入居中に身体状況の悪化や急変があった場合、主治医のみならず、他病院への紹介もして頂き、家族と共に本人への支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応・連絡体制は常に職員一同、把握できています。訪看ステーションへの連絡、夜間の連絡体制も取れており、AEDの使用もいつでも実施できるように努めています。		
35	#	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル整備に加え、地域で行われる避難訓練にも参加しています。実際に避難道を歩き、問題点や当施設に応じた避難の仕方を話し合っています。民生委員さんから、地域の消防団の助けを借りるようにとの助言も頂き、応援をお願いしています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	#	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員には人格尊重とプライバシーの重要性については常に意識づけを図り、守秘義務については誓約書を提出してもらっています。ご利用者への言葉使い、言葉かけにおいては互いに気が付いた時に、その都度注意をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で必要な物が出来てきた場合、職員が直ぐに要望を聞き取り、ご不自由が内容に努めています。個人的な買い物にも対応しています。その方の能力に応じて、自己決定しやすいような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースに合わせて過ごして頂いています。基本的に食事の時間は決まっていますが、起床の遅い方もあり、自由にして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気温にあった衣類の選択は助言させていただきますが、それ以外はお本人の思い通りになっています。要望により、買い物に同行やご家族への連絡もしています。		

40	#	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内でご利用と共に作るのを基本としています。2ユニットありますが、献立は各々違っています。折には希望により、ハンバーガーやカップラーメンなども取り入れることもあります。その方の能力に応じてテーブル拭きや、食器洗いをして頂きます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はすべて記録しており、量が分かりやすいように、大きさの同じコップを使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、必ず洗面台にて、歯磨きやうがいを促し、一人できない方には職員が介助しています。		
43	#	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間、オムツの使用の方でも、日中はリハビリパンツを使用していただき、トイレに誘導して排泄を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入し、排便が3日ない日が続きますと医師からの処方箋の緩下薬を使用しますが、できるだけお薬に頼らない排便を促したいので、食事にも気を配り、水溶性・不溶性食物繊維が含まれる食べ物を意識して調理しています。		
45	#	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本入浴日は週に2回ですが、体調や本人の希望により、決まっていません。2回以上、入る方がほとんどです。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は利用者の希望に沿っています。昼夜逆転で日中、ほとんど寝て、夜間、起きている方もいます。自室ではテレビを見たりして過ごす方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の後には必ず、受診報告書を作成して、職員が全員状況を把握できるようにしています。配薬する職員は決まっています。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味やゲームで楽しめる方。食べ物の嗜好品で楽しめる方など、様々ですが、希望通りの支援をできるだけさせて頂いています。		
49	#	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族に依頼して外出ができる方は少数で、ほとんどが施設職員との外出になってしまいます。認知症の重度の方は、地域の方との外出には、困難です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にはご家族様の了解のもと、個人的な小遣いをお預かりする場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話をお持ちの方、施設かかってくる電話をお取次ぎする方、毎回、手紙を書いて出される方など、様々です。		
52	#	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、日差しが感じられる共用空間を作っています。観葉植物や季節の花を飾り、季節感を感じて頂きます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにおいて、一人一人が心地よく過ごせるような空間と、良い関係性が保たれるように座る場所なども考えて配置しています。他の方とのコミュニケーションが苦手な方には専用のテレビ・ビデオデッキを新たに買い求め、設置して観て頂いています。		
54	#	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室のお部屋にはご家族の写真や、馴染みの物を設置させて頂いています。お誕生日には職員からの手作りのお祝いメッセージが贈られます。		

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や使用しやすいトイレ空間、行き来のできる広いローカなど、ご利用者の身体状況に合わせた設備となっています。又、フロア全体が見えるカメラも設置しました。		
----	---	--	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない